

巻機山 藪スキー 威守松小屋ベース

T野

2024年1月20日-21日

メンバー： T野・H口Y・N井・D山・S田石J・R佛・S原・T中M・T山・A原・
S田石K・N山（お試し）



毎年恒例の威守松小屋ベースの雪訓。この快適で立地抜群の小屋が使用できるのはひとえに一橋大WVOBのN井さんのおかげ。感謝！！

今年は雪訓の前日に山スキーパーティー独自のトレーニングを・・・ということで、藪っぽい急斜面の井戸の壁を舞台にシール歩行と、滑降の訓練を実施した。悪条件をどうクリアするかを体験してもらうのが目的である。端から上を目指すつもりはないのだが、もし条件が良かったら訓練そっちのけで上を目指してしまうかも・・・という気持ちを抑えつつ今回の企画を考えた。それにしても、普段でも充分藪っぽい井戸の壁がこの少雪の今年はどうな状態だろうか・・・？今回は初級者も多いので戦々恐々である。

前夜、某所で仮眠、10名以上もいると仮眠場所にも気を使う。人が来なくなった頃にそっと仮眠し、人が来る前にサッと出ていく、これが肝心である。もちろん、ゴミは全て持ち帰る、これも鉄則だ。

■写真上 登山口、雪がメチャ少ないのに車がメチャ多い！！

■写真中 威守松小屋にて。

■写真下 井戸尾根はまだ藪藪。

1/20

朝食をコンビニで済ませて、清水のいつもの登山口に行ってビックリ！！雪の量は例年の半分もない。いつもは雪の壁になっているところもほんの一跨ぎである。準備してまずは川沿いに威守松小屋を目指す。トレースがありラッセルは全くない。雪は硬く、気温も高いのでまる



で春のようだ。45分ほどで小屋に到着。小屋は雪下ろし不要で入れる。こんなことも今までで初めて。例年だとこの辺り、どこでも歩けるのだが、今年は沢が埋まっておらず、道に沿って登って行く。井戸尾根は取付きから見ると、藪っぽいものの何とかなりそうな気がする。きょんちゃんにキックターンのコツなどを教えながら登って行く。やがて傾斜が急になり、藪がますます濃くなる。「どこまで登るの?」「もう帰ろうよ!!」というあちこちからの鋭い視線を右に左に避けながら、ついでに藪も避けながら何とか登る。雪も硬くモナカっぽいので、帰りの滑降も快適さは期待できない。「では、なぜ登るのか?」「そこに藪があるから・・・」では決してない。「もう少し登れば快適なブナ林があるから」なのである。ここで降りたら、100%修行じゃん!! 上のブナ林はもしかしたら・・・という思いからである。果たして、ブナ林は見た感じはイイ感じの疎林であった。しかし、雪は相変わらず硬く、斜面は波打っている。ということで、ここまで登っても100%修行が確定した。まあ、これも山スキー!! トレーニングと思って受け入れよう。

■写真上 ようやく藪が減ってきた。

■写真中 快適そうなブナ林。

■写真下 最高到達点



下りは、結構悲惨であった。ホリホリとMさんのビンディングがぶっ壊れた。そしてTさんのストックリングが紛失した。しかし不幸中の幸い、メンバーは全員無事であった。越後の山を楽しく滑るには、あと最低1mは雪が必要だ。今年は果たして快適に滑れるようになるのだろうか・・・？実に心配である。

這う這うの体で威守松小屋に戻ると、後発のH本さんとN野さんも到着していて、食当も済ませてくれていた。感謝！！

夜は昭和の歌で盛り上がっていたが、昭和末期に誕生したお試しのN山さんには少し申し訳なかったかな・・・。機会があったら今度は滑りの楽しいところに行きましょう！！

■コースタイム

清水 568m 付近 登山口

(7:15) ~ (8:00) 威守松

小屋 (8:18) ~ (11:30)

1237m 付近 (11:50) ~

(14:20) 威守松小屋



■写真上 快適・・・じゃ無いブナ林の滑降！！

■写真中 何とか無事降りてきた。

■写真下 小屋ではじけるメンバー。

1/21

朝起きると無情の雨。早々に雪訓は中止。何もしないで帰るのもなんなので医師のS田石J氏が講師となって、雪崩で埋まったメンバーを掘り出した後の救命法を実践した。まず、安全な場所まで搬送、そしてバイタルの確認、





心マ…などなど。実際、イザとなったら雪崩に巻き込まれたメンバーをビーコン探査⇒ゾンデ探査⇒場所の特定⇒掘り出し⇒バイタルチェック⇒安全地帯へ搬送と、やることは気が遠くなるほどある。さらに、その時の状況や条件によって臨機応変の対応が求められる。一番重要なのは、雪崩に巻き込まれないに越したことはないので、雪を読むことも重要である。僕がやっているのは下記の通り。

- 1、雪崩は降雪中、もしくは降雪直後に発生する可能性が極めて高い。
- 2、雨の後気温が下がり、表面が凍った雪面に降雪があると非常に危険。
- 3、風で叩かれて硬くなった雪面に降雪があっても非常に危険。

そんな時は、往路を滑るルートを取り、登高時に雪のずれやワッフ音、クラックなどがないかを注意深く観察しながら登る。そして、そういう兆候があれば森の中の安全地帯を出ない。オープンスロープに出ざるを得ないときはピットチェックを実施する。滑降時はメンバーの滑りを常に注視する。そんなところかな。山スキーが好きな人は他人事と考えずに、自分で雪を読む努力をしましょう！！

今回、状況が悪くかなりシビアなトレーニングとなりましたが、良い時は舞い上がりたくなるくらい快適です。次回はずいぶん、快適な雪を滑りましょう！！

■写真 搬送中！！